

教えて！  
土田先生

# 道徳授業／誌上チェック&アドバイス



2学年 【主題名】  
**思いやりの心**  
【教材名】  
**ぐみの木と小鳥**  
(光文書院)



主題を通して考えたいこと

<親切, 思いやり>

●親切にする行為は、見返りを期待したり自己満足の押しつけであったりするものではない。相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手にとって良いと思うことを行うこと。

相談者・相談内容



千葉県習志野市立香澄小学校教諭  
岩瀬慈子 先生

授業でおさえないことは、

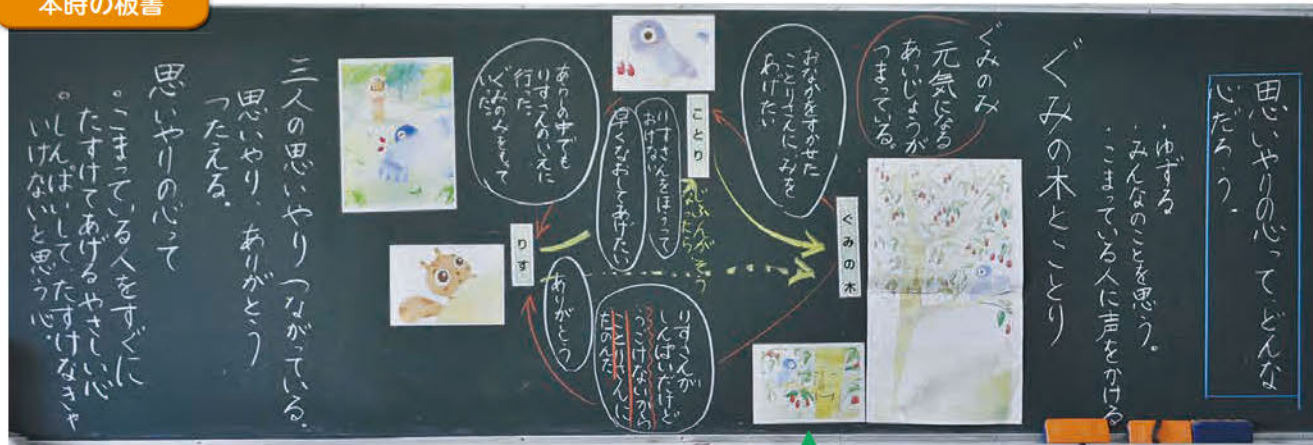
- ▶ 親切には、状況によって様々な形があること
- ▶ 何をすれば相手が本当に喜ぶかを考え、行動することの大切さ
- ▶ 三者が互いを思いやり、支え合いながら、よりよい人間関係が築かれていくこと

の3点でした。話し合いでは子どもの言葉を受けて、問い返し、深めていきましたが、自分の考えていた授業構想にとらわれすぎていたようです。りすの思いやりについて発言した子どもの意見を生かせず、結局、おさえないことをはっきりと言語化させることができませんでした。どうしたらよかったですでしょうか。

本時の展開

学 習	手 立 て
<ul style="list-style-type: none"> <li>○思いやりの心について考えていくことを知る。</li> <li>○登場人物の思いやりの心について話し合う。</li> <li>○思いやりの心について、考えをまとめる。</li> <li>○自分たちの身の回りの思いやりの心について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学級の「よいところ見つけ」の木の名前「思いやりの木」を話題にして、思いやりの心について考えていくことを知らせる。</li> <li>●板書は、ハートや矢印(色分け)を使い、三者の思いやりのつながりを整理する。</li> <li>●「思いやりの木」に書かれていたメッセージなどから、見つけておいたものを紹介する。</li> </ul>

本時の板書



授業で工夫した点

ぐみの木・小鳥・りすの三者が互いを思いやり支え合って、よりよい人間関係が築かれていくことに気づかせるために次の3点を工夫しました。

【板書】互いを思いやり、支え合う三者のつながりを可視化する。

【ワークシート】板書と対応させる。思いやりをハートの数で数値化し、思考を深め課題意識をもたせる。

【問い返し】話し合いでの子どもの発言から問い返し、ねらいとする価値に気づかせる。

ここはナイス！  
板書の工夫



ぐみの木・小鳥・りすの三者の思いやり、支え合う関係が、場面絵の位置とふきだしと矢印等により、視覚的に分かりやすい板書に仕上がっています。全体として、すっきり構成され、本時のテーマとまとめがつながり、1時間の学習がこの板書で分かるのがとてもよいですね。

授業の内容 (T:教師 C:児童)

- T:思いやりの心って、どんな心?  
C:友達にゆずったりすること。  
C:自分のことを優先しないで、みんなのことを思うこと。  
T:今日は、思いやりの心はどんな心かを考えていきましょう。  
(「ぐみの木と小鳥」の朗読を聞く)  
T:思いやりのある人はいましたか。  
C:小鳥さん。  
C:ぐみの木さん。  
C:りすさんだと思います。(えっ? 数名の反応)  
T:思いやりがあったと思う人のハートに色をぬりましょう。  
(ワークシートの三者のハートに色を塗る。最高5)  
C:小鳥さんです。わけは、嵐の中でもりすさんの家に行ったからです。  
C:りすさんがありがとうと言ったからよいと思います。  
C:ぐみの木さんは、実をあげたことと、りすさんが来ないことを心配して、動けないから小鳥さんをお願いをした。  
C:もし、ぐみの木がいなかったらお腹をすかせていた。  
T:ぐみの木さんが実をあげたことと、小鳥さんに頼んだ思いやりは、りすさんに向いているね。小鳥さんが、ぐみの実をりすさんに届けたのが思いやりだね。小鳥さんは、ぐみの木にお返ししたかったんだね。  
C:違うよ。  
T:まわりの人と話してみよう。(少人数での話し合い)  
C:りすさんのために届けた。かわいそうだから。  
C:友達だからほっとけなくて、ぐみの実をあげた。  
T:届けるのは、ぐみの実じゃなくてよかったの?  
C:りすさんは、ぐみの実が好きだから。  
C:ぐみの木さんが、届けてって言ったから。  
T:小鳥さんは、ぐみの木の言いなりになったの?  
C:ぐみの木さんの実だと愛情があるから、元気になるおまじないみたい。  
C:ぐみの実だとぐみの木さんが心配していることがりすさんに分かるから。  
T:小鳥さんも愛情のつまったぐみの実をもらったんだね。小鳥さんは、ぐみの実をもらって元気になったから、りすさんにあげたんだね。りすさんが、「ありがとう」と言ったのは、誰に言ったの?  
C:小鳥さんとぐみの木。  
(三者の思いやりの関係を矢印を使って板書する)  
T:三人の思いやりの気持ちは、どうなっているの?  
C:つながっている。

子どもの反応

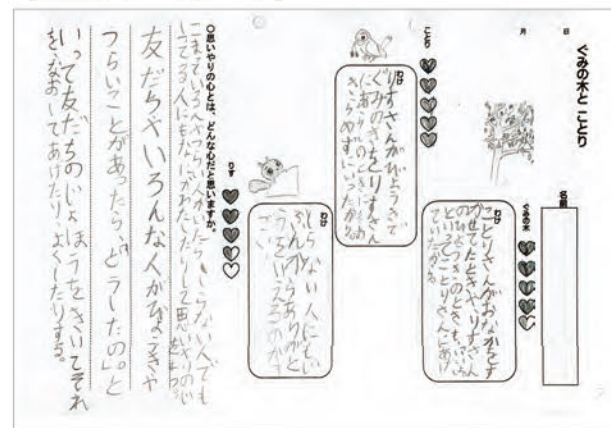
【A児のノート】

ただしんばいするだけじゃなくて、たとえば「だいじょうぶ」と声をかけるだけじゃなくて、ほっとかないでたすけてあげたのが思いやりだと思います。できるだけ自分のできることをやることです。

【B児のノート】

知らない人でも、じぶんだったらさびしいとか、こまるとか、みんなのことを考えて行こうする、みんなをたすけられる心。人を心ばいする心。

【C児のワークシート】



「思いやりがあったと思う人」の度合いを5つのハートを塗ることで表現。その理由も書いています。C児は小鳥を5にしています。

わたしならこうする！  
問い返しの工夫



思いやりのある人に「りすさん」と答えたとき、「えっ?」と反応した子が数名いました。この子たちに「どうしてそう思ったのか」を問い返していくと、病気で寝ていたりりすさんにも、小鳥やぐみの木を思う心があったことに周囲の子も気がついたでしょう。

ランクアップアドバイス  
ねらいへの意識が生む「よい」問い返し



教材提示、問い返し、板書の構成とよく考えられた授業です。しかし、授業者はしっくりこなかった。原因にも気が付いています。授業構想通り進まなくても、「りすさんは思いやりがあるの? どうして?」等と問い返し、話し合いをすることで、より深く三者の関係がつかめたでしょう。子どものつぶやきやほっとする意見を拾い、問い返すためには、授業者のねらいへの意識が明確である必要があります。



# 道徳授業 Q&A

## Q1

【6学年】

【内容項目】  
勤労、公共の精神

【教材名】  
花びんのある駅  
(光文書院)



相談者



千葉県富津市立  
富津小学校教諭  
礒部 光泰 先生

内容：対象の人物

主人公の行動が利用者の心に変容をもたらしていく内容で、「公共の精神」という道徳的価値を体現した行動ですが、自我関与を促すには児童との「距離」を感じました。そこで、友人・恵美に自我関与を促し、その恵美を通して幸子の行動を考えるという展開にしました。自我関与を中心とした学習が「きれいごと」にならないために、対象は必ずしも教科書が想定している人物でなくてもよいのでしょうか。



## A1

ポイント  
アドバイス



ここはナイス！

児童の実態を考えて主人公の幸子より恵美を中心に考えさせたのですね。道徳的ねらいを達成するために効果的だと判断したならば、指導書どおりの展開をしなくてもよいでしょう。指導書の「展開例」は、モデル授業プランです。参考例です。教材分析を行い、児童の実態とねらいを考えて工夫してください。また、板書も構造的に工夫しています。関係と意識が分かりやすいですね。

ランクアップアドバイス

まず、「公共の精神」とは何かを授業者がおさえることが大切。公共ですから、主人公・幸子や恵美、他の乗客、駅員の視点から花びんを見つめてもよいですね。「きれいごと」にしないためには、「なぜ、今までできなかったか」などの問い返しに加え、幸子の行動から乗客ももっている「きれいになりたい」という心や良さが刺激され、自主的・自律的行動につながったことに気づかせたいですね。

## Q2

【1学年】

【内容項目】  
節度、節制

【教材名】  
かぼちゃのつる  
(光文書院)



相談者



千葉県八千代市立  
村上北小学校教諭  
瀧澤 泉 先生

内容：終末の工夫

事前のアンケートでわがままな行いはよくないことは分かっているが、『なぜいけないのか。』実感を伴って理解している児童は少ないと感じ、「かぼちゃ」に自分を重ねて考えさせる授業展開を選びました。授業の前半で「かぼちゃ」になって教室を自由に動きながら、つるを伸ばす快感を体験した児童は、「すいか」の言葉に対して「好きなことをしているだけなのに。」「ひどいことを言う。」という気持ちになっていました。しかし、役割演技で役割を交代したことで「すいか」の立場や気持ちを理解し、「かぼちゃ」の行動を見つめ直すことができました。児童の思考の流れを止めずに、教材での学びを日常生活につなげるには、終末をどのように工夫すればよいのでしょうか。



## A2

ポイント  
アドバイス



ここはナイス！

教材を視覚的に分かりやすく提示しています(右の写真)。迫力がありますね。さらに、前半で教室を自由に動き回らせたのはよかったですね。好きなことをする快感とその後の役割交代によるすいかの気持ちの理解が実感を伴うものとなりました。また、この迫力ある教具は以前作成したものなのですね。「教材教具の保管と活用」は今後の道徳授業をより充実させる財産になります。

わたしならこうする！

どうしても自己中心的になりがちな1年生。役割演技を交代で実施することで両者の気持ちを考えてことができましたね。終末では、「両方やってみて分かったこと」を整理して確認するとよいでしょう。日常生活につなげるためには「板書の写真をとって掲示しておく」と、自己中心的な言動が見られたときに自分たちで気づききっかけになりますね。